

一般社団法人日本スーパーマーケット協会

会長 岩崎 高治

2024年 年頭所感

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。
新年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年も引き続き原材料やエネルギー価格が高止まりし、円安も相まって、多くのものを輸入に頼る我が国経済は大きな影響を受けてきました。

そのような中にあっても、新型コロナウイルス感染症は5類に移行し、行動制限もすべて解除されたことにより、国内の社会経済活動が正常化に向かう中、個人消費は徐々に明るさを取り戻しつつあります。

スーパーマーケットは、流通3団体による販売統計調査の結果を見ると、売り上げは順調に推移しておりますが、度重なる食品の値上げ、電気料金や物流コストの上昇、人手不足と人件費の高騰などに直面しており、経営の舵取りが難しくなっています。やはり、実質賃金が伸びて可処分所得が増加するという善循環が大切だと思います。

昨年会長に就任した際、スーパーマーケットの健全な発展、流通機構の近代化合理化の推進、ライフラインとしての食品の安定供給という当協会設立の原点に立ち返ると申し上げました。本年もその実現のための課題解決に向けて取り組んでまいります。

第1は、人手不足への対応です。少子高齢化、人口減少により、働き手不足は益々深刻化しています。まずはスーパーマーケット各社による生産性向上への努力が大切です。その上で、外国人在留資格「特定技能」のスーパーマーケット分野の追加認定の実現に向けて活動を行います。

また、就労制限につながる年収の壁について厚生労働省から「年収の壁・支援強化パッケージ」が発表されたことは一定の評価を致しますが、時限措置でなく、多くの方が就労制限することなく働ける環境の実現に向けた「税と社会保障の抜本的な改革」を求め活動してまいります。

第2は、2024年問題への対応です。昨年「物流の適正化・生産性向上に向けた自主行動計画」を、所管省庁に提出しました。業界として問題意識を持ち、当協会加盟企業10社が「SM物流研究会」を立ち上げており、その輪は益々広がろうとしています。サプライチェーン全体の効率化に向けてメーカー・卸売業とも情報を共有しながら、発注リードタイムの見直し、納品期限の1/2ルールへの変更、さらには、バース予約システムの導入などで、荷待ち・荷役等作業時間の短縮に取り組んで参ります。

最後に環境問題への対応です。業界では食品の廃棄、プラスチック、CO₂排出量の削減に取り組んでおり、レジ袋の有料化やカトラリーの素材変更の推進などを進めてきました。環境問題の多くは協業領域であると考えています。会員間で先進的な取り組みを共有してまいります。

食品スーパーマーケットはお客様の豊かで楽しい食生活の実現と、ライフラインとして食料品の安定供給という重要な役割を果たすことが求められています。これからも変わらぬご支援をお願いいたします。

今年が皆様にとりまして、良い年となりますことを心より祈念いたしております。